

つながった支援 「風の電話」再び

岩手・大槌 風で倒壊、大工ら修理

強風で倒れて壊れていた岩手県大槌町の「風の電話ボックス」が10日、支援に駆けつけた大工らによって補強・修理され、元の場所に据え付けられた。全壊した扉を作り直し、11日にも電話機を戻す。

風の電話は、1人で静かに、会えなくなった「大切な人」に語りかける場にしてみらおうと、庭師佐々木格さん(69)が自宅の庭園に置いた。中には線のつながっていない黒電話があり、震災後、約1万3千人が訪れた。隣の山田町から駆けつけた大工の港郁男さん(59)も被災者で、妻と3回訪れたことがあるという。

佐々木さんは「もう再建できないと思っていた。被災地ではまだまだ風の電話を必要としている人がたくさんいるので、修理できてよかった」と話した。

(山浦正敬)

 デジタル版に動画

